

# 労協連だより

古村伸宏（日本労協連・事務局長）

全国総会を終えて早1ヶ月。高野新専務を迎えての新しい体制は、総会后直ちに動き出した。

この1ヶ月間もまた、めまぐるしく慌しい毎日であった。その中で、総会直前に発表された厚生労働省の「雇用創出企画会議第1次報告書」をめぐる反響・反応の大きさは想像を越えたものがある。マスコミへの露出も段々驚くべきことではなくなって久しいが、今回の報告書の意味は異なる。深刻化する失業情勢を切り拓く重要な手段として、コミュニティビジネスが大きくクローズアップされた。この分野はどちらかといえば経済産業省から頻繁に取り上げられてきた。今回厚生労働省がコミュニティビジネスを強く打ち出した背景はともかくとして、その担い手としての「労働者協同組合」という固有名詞の登場は、期待感を抱かせるに十分であった。労協と並んで期待を受けている担い手はNPOであり、雇用創出を単なる数の問題だけでなく、その方法や働き方へも問題意識を進める打ち出し方に感じる。ともあれ、この報告書を持参して、自治体をはじめ他の協同組合・労働組合・NPOなどへと足を運ぶ数だけ、ネットワークの深まりと可能性を広がりを感じさせる。特に自治体が労働者協同組合を知り・位置づける上で格好の材料となっている。

そのほか、少子化・次世代育成支援や青少年の健全育成、ソーシャルキャピタル、そして介護保険制度改革の論議・政策が相次

いで打ち出される中で、共通するキーワードは「自立」と「協同」に収斂されてきている。全てを覆ってきた「競争」の原理が音を立てて崩れようとしている。元凶は「競争」に由来していると多くの人が気づいた証だろう。

では、それに変わるあり方はクリアかといえば、まだまだ混沌としている。その発信者としての労協がどう変わっていけるのか、本物の労協へという課題は、もはやお題目ではなく待ったなしの課題だ。その中心テーマは、「1人ひとりの変革」にかかっている。歩みを振り返り、目指すべき姿を描き、着実に自分を変える努力を積み重ねることだ。今年度重視している「子育て支援事業推進会議」の準備や討議の中で、上記のことを強く感じた。会議のレジメには「子育ては人生と生き様を写す」と記した。もちろん自身に課されている試練であり大テーマだ。

菅野理事長の「生き方を問う子どもたちへ～教育改革の原点へ～」（田中孝彦、岩波書店）の読書ノートに、こんなくだりがある。「子育ての困難を体験する中で、やさしく、粘り強く、柔軟で、思慮深い親となってきた人・・・」。胸に響く重みのある言葉である。人と人が関係をつくることの難しさを監事ながら、しかしそこから逃げず、真の絆を培う、そんな自分と労協運動が創造できれば、と思う。大きく大胆に覚悟を決めて変わろう。

## 研究所たより

## 研究所たより

6月28日に会員総会が終わり、新しい年度が始まりました。理事会のメンバーも入れ替わり、活動もまた新しい形に変わっていきます。

総会後の研究会「協同労働とアソシエーション」には、総会を上回る40名近い参加者がありました。ご講演いただいた大阪経済大の田畑実先生も研究会終了後、すぐに会員にお申し込みいただき、その後の懇親会も2次会までお付き合いいただきました。なかなか先の見えない時代だからこそ「協同労働」にさまざまな形で感心を持つ人びとが増えていくように思います。法制化の問題が具体的にしていく中で、総会の討議のまとめで岡安専務が言ったように、あらかじめ敵をつくらず、幅広い人たちと関わり、話し合っていく必要を感じます。そのためにも、Webサイト等も活用してもっと情報の発信をしていかなければ、と思っています。

協同総研の関わる今後の予定として、秋に2つのイベントがあります。ひとつは、「新しい働き方を考えるシンポジウム in さいたまーわたしがつくる、まち・しごとー」です。法制化運動を進めるためにも、全国でワーカーズコープを知らせる「縦断シンポ」が一昨年から取り組まれています。その一環として6月号の「たより」でもご紹介した連合埼玉などのご協力をいただき、9月6日（土）にさいたま共済会館（さいたま市浦和区）で開催します。さいたまNPOセンターにもお願いをして、NPOや協同組合の「新しい働き方」を広く知ってもらおうシンポジウムに出来たらと考えています。基調講演は、今年5月に『豊

かさの条件』（岩波新書）を上梓した、埼玉大学名誉教授の暉峻淑子さんをお願いをしました。『豊かさの条件』は真の豊かさは競争経済ではなく連帯経済の必要性を説いています。賀川豊彦やレイドロウの「正気の島」論にも触れて人間の支えあいの理論を展開しており、労働者協同組合の説明をしたところ、シンポでの講演を快諾してくださいました。また、法制化運動にも強い関心を示していただき、今後さまざまに応援団としてご協力いただけるのではないかと思います。

もうひとつは、11月30日（日）に関西大学（大阪府吹田市）で行われる「関西協同集会2003」です。2年に1度行っている協同集会の地域版で、法制化関西市民会議が中心となり準備が進められています。基調講演は障害をもつ人たちの自立支援を行っている奈良の「たんぼぼの家」理事長、播磨靖夫さんです。ぜひご参加下さい。

また、今年度は2年来の課題であったイタリア調査を行います。田中夏子さん（都留文科大）のご協力の下、労協連と共催で、9月13日（月）～26日（金）の日程を予定しています。詳細が決まり次第またご報告します。

協同総研ではビデオライブラリーも充実させていこうと考えています。手始めに、北海道・浦河の「べてるの家」のビデオ、「ベリー・オーディナリー・ピープル」全7巻を購入しました。精神障害者の生きる世界を知る上では、非常に意味のあるビデオだと思っています。ビデオ上映や貸し出しも企画していきます。

（菊地 謙）